

# 全国の火山活動状況

気象庁観測部地震課

気象庁が常時火山観測を実施している桜島・阿蘇山・浅間山・伊豆大島の4火山については、昭和50年8月以降12月末までの活動状況を、その他の火山については、報告を受けたものについて状況を要約した。

第1表 火山情報発表状況 (昭和50年8月~12月)

火山回数	桜島	阿蘇山	浅間山	三原山	伊豆大島	樽前山	有珠山	北海道駒ヶ岳	十勝岳	吾妻山	安達太良山	磐梯山	那須岳	三宅島	雲仙岳	霧島山
定期	5	5	5	5	1	2	1	2	1	2	2	2	2	2	1	1
臨時	2	2													1	

第2表 全国火山活動概況 (昭和50年8月~12月)

火山名	8月	9月	10月	11月	12月
桜島	▲	▲	▲	▲	▲
阿蘇山			△	△	△
樽前山	△	△	△		
南硫黄島南東沖	▲				
雲仙岳			△		
諏訪之瀬島	▲	▲	▲	×	×

注： ▲噴火      △異常現象      ×未報告

## 桜 島

活動が依然続き爆発も増加した。爆発回数の推移は 8 月 9 回、9 月 16 回、10 月 15 回、11 月 24 回、12 月 9 回であった。昭和 50 年の通算爆発回数は 199 回で、昭和 30 年の活動開始以来の年間回数の順位は、35 年 414 回、49 年 362 回に次いで、第 3 位となった。地震回数は 11 月は 12578 回と急増し、49 年 5 月～8 月の活動最盛期に次ぐ値となったが、12 月は 2592 回で、47 年秋に活動が活発となってから、2 番目に少ない月となるなど波乱をみせた。

この期間にみられた顕著現象・異常現象は次のとおり。

ア. 8 月 21～22 日にかけて、溶岩上昇を示す B 型地震の群発がみられ、地震回数は 21 日 850 回、22 日 1057 回を数えた。

イ. 8 月以降、南岳火口上に弱い火映が、ひんばんに観測されているが、いままで火映は年数回程度しか観測されなかった。観測日は次のとおり。

8 月 8 日、9 日、16 日、22 日、30 日。

9 月 21 日、22 日、23 日、26 日、27 日。

10 月 1 日、2 日、5 日、13 日、14 日。

11 月 18 日。

12 月 8 日、9 日、24 日、31 日。

ウ. 9 月 17 日朝、大雨に伴い土石流が起り、野尻川、第 1・第 2 古里川がはんらんした。

エ. 10 月 21 日未明から朝にかけてと 24 日朝、11 月 10 日昼すぎから 11 日朝にかけて、異常に強い鳴動が発生し、桜島島内だけでなく、対岸の鹿児島市内でもかなり広い範囲で聞こえ、不安を訴える市民が多かった。この鳴動はいずれも、その直後に起った爆発と同時に終息した。

オ. 10 月 29 日 16 時 05 分から 30 日 2 時 39 分にかけて、5 回連続的に爆発し、特に 30 日 2 時 39 分の爆発では、黒神方面に多量の軽石が降った。

カ. 火口状況

8 月 1 日から 11 月 26 日にかけて、前後 5 回実施された自衛隊機による南岳火口撮影写真によると。

- ① A 火口には多量の溶岩と噴出物が充満し、火口底は浅く平らになっており、中心部がドーム状に盛り上り、その周辺から激しく噴気を出している。
- ② B 火口は終始、噴煙活動のため火口内の状況は不明だが、相次ぐ活動のためかなり深くなっており、A 火口との境界壁は大きく破壊されている。

## 阿 蘇 山

7 月以来、おだやかに白煙を出す程度であったが、9 月 29 日から強い臭気ガスを噴出し、10 月 1 日から有色噴煙を盛んに噴き上げ始めた。地下活動を示す連続微動の振幅も 9 月より 10 月は大き

くなり、孤立型微動の発生回数も増加した。火山灰は火口周辺で多く、10月13日16時30分から14日6時まで、山頂測候所で観測した降灰量は、 $193 \text{ g/m}^2$ であった。また鳴動・臭気ガス・火映等がしばしば観測された。

11月も有色噴煙活動と降灰が続き、火口縁一帯には0.5cmぐらいの積灰があり、11月11日15時から12日9時まで、山頂測候所では、 $676 \text{ g/m}^2$ の降灰を観測した。12月3日夜には、こぶし大から半身大ぐらいの赤熱噴石を火口底から40～50mぐらいの高さに噴き上げる噴石活動があったが、翌4日には降灰を伴う噴煙活動に変わり、12月10日まで続いた。その後は12月中旬に一時有色噴煙がみられたほかは白煙が続いている。

## 浅間山

火口にもっとも近いB点(火口の南1.8km)における火山性地震回数は高水準にあるが、とくに異常な現象は認められず、静かな状態が続いている。

B点地震回数： 8月 1.693回、 9月 1.527回、 10月 1.170回、 11月  
1.622回、 12月 1.365回

## 伊豆大島

噴煙はみられず、火山性地震の発生もほとんどなく、静かな状態が続いている。

## 雌阿寒岳

(9月29日。火山情報)

5月の現地観測のときと同様、とくに大きな変化はなく、火山性地震の増加もなく、火山活動は平穏に経過している。

## 樽前山

(8月29日・10月17日 火山情報)

一時減少していた火山性地震回数が、8月からやや多くなったが、現地観測結果は噴気量・噴気温度等変化はない。

50年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火山性地震回数	337	345	79	43	40	22	42	110	188	116	37	40

ちなみに昭和43年1月から49年12月までの火山性地震の月平均回数は32回である。

## 有 珠 山

(10月28日 火山情報)

大有珠と昭和新山とも、とくに異常は認められず、静穏な状態が続いている。昭和新山のカメラの噴気温度は $590^{\circ}\text{C}$ で、依然、高温を継続している。

火山性地震の回数は、7月6回、8月14回、9月9回であった。

## 北海道駒ヶ岳

(8月30日、11月2日 火山情報)

火山性地震も少なく、現地観測の結果もほとんど変化はない。

## 十 勝 岳

(9月18日 火山情報)

62-I火口、62-III火口とも噴気活動は弱まり、62-II火口の噴煙量はほとんど変化は認められず薄白黄色を呈している。地震回数も少なく とくに変化は認められない。

## 吾妻山・安達太良山・磐梯山

(8月23日、10月31日 火山情報)

異常は認められず平穏な状態が続いている。

## 那 須 岳

(10月1日 火山情報)

現地観測の結果、各地点とも噴気はかなり多めであったが、特に大きな変化は認められなかった。

遠望・震動観測とも特に異常な現象はない。

### 三宅島

(9月19日、11月26日 火山情報)

噴気温度や地中温度に大きな変化はなく、一般的に異常は認められなかった。火山性地震回数は7月1回、8月18回、9月6回、10月12回で、この中には三宅島近海の地震も含まれている。

### 雲仙岳

(10月20日、12月10日 火山情報)

ア 九州大学島原火山観測所から普賢岳と眉山の中間付近にある板底(いたぞこ)で、噴気により樹木枯死・動物の死体多数がみられたという連絡があったので、10月19日、現地観測を実施した。広さ15m×30mくらいの範囲で樹木(樹齢15~50年の杉約30本等)が枯死していたが、動物の死体は確認できなかった。地温は異常なく、ガス分析の結果、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)と微量の硫化水素(H<sub>2</sub>S)が検知された。

#### 1 地震観測結果

年/月	4 <sub>9</sub> / <sub>6</sub>	7	8	9	10	11	計
地震回数	8 <sub>1</sub> / <sub>1</sub>	13 <sub>7</sub> / <sub>2</sub>	5 <sub>9</sub> / <sub>0</sub>	4 <sub>7</sub> / <sub>1</sub>	6 <sub>6</sub> / <sub>1</sub>	6 <sub>7</sub> / <sub>1</sub>	45 <sub>7</sub> / <sub>6</sub>
年/月	4 <sub>9</sub> / <sub>12</sub>	5 <sub>0</sub> / <sub>1</sub>	2	3	4	5	計
地震回数	4 <sub>5</sub> / <sub>1</sub>	3 <sub>7</sub> / <sub>2</sub>	5 <sub>3</sub> / <sub>2</sub>	4 <sub>1</sub> / <sub>0</sub>	7 <sub>9</sub> / <sub>0</sub>	2 <sub>9</sub> / <sub>0</sub> / <sub>6</sub>	54 <sub>5</sub> / <sub>11</sub>
年/月	5 <sub>0</sub> / <sub>6</sub>	7	8	9	10	11	計
地震回数	2 <sub>2</sub> / <sub>0</sub>	5 <sub>6</sub> / <sub>3</sub>	7 <sub>3</sub> / <sub>2</sub>	5 <sub>1</sub> / <sub>0</sub>	3 <sub>8</sub> / <sub>0</sub>	3 <sub>0</sub> / <sub>0</sub>	27 <sub>0</sub> / <sub>5</sub>

注) 地震回数欄 上段:電磁地震計(2.000倍)

” 下段:有感地震回数

### 霧島山

(12月10日 火山情報)

この半年間も表面現象はおだやかであったが、9月30日夜からと10月17日から加久藤カ

ルデラ内で、震央付近での推定震度Ⅳを最大とした局発地震がひん発した。

新燃岳南西1.7kmに設置してある電磁地震計(5.000倍)によるp～s5秒以内の地震回数は6月15回、7月13回、8月23回、9月58回、10月126回、11月30回の計265回で前回(49.12～50.5月)130回より大幅に増加したのは、加久藤カルデラ内で、地震が発生したためであった。

9月1日と12月3日に温泉や地熱の一部について温度を測ったが、異常はなかった。

## 諏訪之瀬島

(諏訪之瀬島分校の報告による)

7月 噴火(29日)

8月 噴火(8日、11日～16日、27日～31日)

9月 噴火(1日、15日、17日、18日)

10月 噴火(4日～9日、20日、21日)